

〔茶道早合點<sub>下</sub>〕箸

杉の箸あり、竹の箸あり、竹の節をこめたるもあり、長短太細削かた等流義によつて品多し、

〔茶式湖月抄<sub>三篇下</sub>〕箸の寸法

長サ八寸五分 大ノ方 同八寸 小ノ方

右杉木也、あとさを少細く、總體四角ニ少シ平目なるものなり、但、眞の不角切折敷の箸は、八寸

五分の箸なり、但巾二分ニ厚サ壹分歟、

竹箸も同寸なり

〔女大學教草書入〕喰初の祝

喰初は誕生ありし當日より、百廿日めに養初の祝義あるなり、中略 箸は勝木なり、長サ壹尺二寸

を用ゆ、

〔應仁記<sub>上</sub>〕亂前御晴之事

九番ニ花之御幸也、去レバ花御覽ノ結構ハ、以百味百菓ヲツクリ、御相伴衆ノ筋ヲバ、金ヲ以展之、

御供衆ノ筋ヲバ、沈ヲ以削之、

〔止由氣宮儀式帳〕一職掌禰宜内人物忌事

忌鍛治内人無位敢石部廣公

右人行事卜定、任日後家雜罪事祓淨<sub>氏</sub>、三節祭仕奉、御贄作奉淨小刀并金御箸作奉<sub>氏</sub>、別小刀三

柄御箸四口、略

〔空穂物語<sub>藏開上</sub>〕左の大殿大きみ、春宮にさぶらひ給がもとより、中略 ちいさきまろがねのはし、

あまたすへて奉り給へり、

〔延喜式<sub>六</sub>齋院〕人給料略

箸種類  
以原質爲名